理科部会

小学校新学習指導要領、教科書を批判的に検討

高鷹美恵子

私は、理科は「自然科学の基礎となる事実や概念・法則を子どもたちに学習させること」が目標になると考えていますが、新しい学習指導要領を読めば読むほど、違う方向に学校教育が進められていくように感じます。

今年、理科部会では新学習指導要領解説について丁寧に批判検討してきました。現行の小学校の学習指導要領と同じように、新学習指導要領も「自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能、問題解決の力、自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度の育成」を目標としていて、理科で学習する内容についてはあいまいなままです。自然科学の基礎を学ぶものとはなっていません。

問題解決の力として3年生は「問題を見出す」4年生は「根拠のある予想や仮説を発想する」5年生は「解決の方法を発想する」6年生は「より妥当な考えを作り出す」力を育てるとしています。けれど、これらはばらばらに育てる力なのでしょうか？それぞれの学年の成長に合わせて総合的に育てていくものだと思います。

この夏に採択される教科書は、新学習指導要領が大きく影響していて、「理科の学び方」などとして、問題を見出す、調べる、まとめるといった、授業の流れがほとんど同じになっています。授業の流れは、単元によっても、学習内容によっても違うので、教師が、多様に工夫していきたいものです。けれど、教師の工夫や児童のわかりかたに合わせていくことなどができにくくなっています。ますます、わからないまま授業が進んでいき取り残される子どもたちが増えるのではないかと危惧されます。教科書通りに授業を進めればいいのではなく、子どもたちに何をどのように教えるかについての検討を続けていきたいと思います。他社の教科書に取り上げられている内容を知っていると、学習内容を膨らませて指導することができます。その点からも、教科書の検討はこれからも、大切にしていきたいと思います。今年度は、教科書の内容について細かく検討を続けていく予定です。

改訂された放射線副読本

また、今年度「放射線副読本」が改訂され、小中高等学校の児童生徒に配布されました。そこで、中高校生向けの新「放射線副読本」についての検討もしました。福島での原発事故後のいじめや風評被害、復興の様子については手厚く取り上げられているのですが、原発事故についてや放射線そのものについての科学的な分析は不十分なものでした。

東京民研理科部会は、直接授業に関わる実践の検討だけではなく、学習指導要領や教科書など学校現場の実践の背景にある動きについて集団で検討することのできる貴重な部会です。職場は年々忙しくなりますが、部会には、どなたでも参加できますので、ぜひ、論議に参加してください。毎月第2木曜日、エデュカスの会議室で部会をやっています。**（共同研究者）**